

平成29年6月7日(水)
国土交通省関東地方整備局
横浜港湾空港技術調査事務所

記者発表資料

技術交流会の開催について

関東地方整備局横浜港湾空港技術調査事務所では、港湾空港分野の技術力をより高める取り組みとして、港湾空港技術研究所、並びに民間の方々から様々な新しい技術を8件発表いただき、参加者との意見交換を行う技術交流会を開催します。

記

1. 日 時

平成29年6月29日(木) 13時00分～18時00分
(受付 12時30分より)

2. 場 所

横浜港湾空港技術調査事務所 多目的プラザ
(神奈川県横浜市神奈川区橋本町2-1-4)

3. 発表テーマ

別紙のとおり

4. 参加申し込み

技術交流会の参加には事前に申し込みが必要です。6月20日(火)までに横浜港湾空港技術調査事務所ホームページより申し込み下さい。

アドレス：<http://www.pa.ktr.mlit.go.jp/yokohamagicho/>

なお会場の都合上、参加者は先着50名とします。

※取材を希望される場合は、6月27日(火)18時00分までに下記担当者まで連絡をお願いします。

発表記者クラブ

竹芝記者クラブ 神奈川建設記者会 横浜海事記者クラブ

問い合わせ先

所属 関東地方整備局 横浜港湾空港技術調査事務所
担当 調査課長 遠藤 正洋 (えんどう まさひろ)
電話 045-461-3893

第5回技術交流会発表テーマ一覧

番号	テーマ	概要	発表者
1	ラジコンボートを用いた港湾構造物の点検・診断システム	栈橋上部工下面の目視調査は気象海象の影響によって常に静穏な同一環境下で実施できない他、狭隘な部位が存在する栈橋の前面(主に前垂部)では進入できず十分な調査が実施できないという課題がある。このため、ラジコンボートに高性能の動揺抑制装置を介して撮影用カメラを搭載し、波浪による動揺を抑制して栈橋上部工下面部の画像を撮影し、効率的かつ客観的に劣化診断・モニタリングするシステムを開発した。※本技術は「SIP(戦略的イノベーション創造プログラム)インフラ維持管理・更新・マネジメント技術/モニタリングシステムの現場実証」で採択され、開発した技術である。	五洋建設(株) 技術研究所 水野 剣一
2	鋼構造物の腐食等を非破壊で検出可能な技術 「RTD-INCOTEST」 (NETIS:KKK-140002-VR)	港湾鋼構造物の肉厚測定では、一般に超音波厚み計による方法が用いられるが、鋼材表面に付着した貝殻や被覆材を測定前に除去する必要がある。このため、調査の作業効率が悪く、除去した付着物の処分や作業時の海洋汚濁の問題、さらにケレン時に鋼材を傷つけることで腐食が助長する恐れ等の課題がある。そこで、これらの課題を解消できると考える、非接触型の測定装置を実海域の鋼矢板岸壁の肉厚調査で適用し、超音波による測定結果と比較した結果を報告する。	若築建設(株) 技術部 技術研究所 コンクリート・構造グループ 秋山 哲治
3	リアルタイム津波予測技術	南海トラフや相模トラフで発生する地震により発生した津波が東京湾内へ来襲することが懸念されている。東京湾内に津波が進入する場合、湾口と湾奥では到達時間に1時間程度の差があり、津波の高さについても局所的な地形の影響が大きい。地域ごとの具体的な予測情報があれば、早期対応の重要な判断材料となることが期待される。リアルタイム津波予測技術は沖合の観測データに基づき、短時間で地域ごとの沿岸の津波高さや浸水状況を予測することが可能な技術である。ここでは、東京湾内の港湾を対象に本技術の適用性を検討した結果を報告する。	国立研究開発法人 港湾空港技術研究所 海洋情報・津波研究領域 津波高潮研究グループ長心得 兼務 高川智博
4	地盤と地下構造物の動的相互作用による地表面沈下に関する研究	2011年東北地方太平洋沖地震の際、仙台空港の誘導路において地下構造物周辺の直上地盤で局所的な沈下被害が発生した。本研究では、局所的な沈下被害の原因の一つとして地盤と地下構造物の地震時動的相互作用に着目し、1g場模型振動実験において、液化地盤のひずみ履歴と地表面沈下の関係性を明らかにした。また、種々の手法による変形解析を実施し実験結果と比較することで、空港舗装等の沈下量予測の精度向上に資する成果を得た。	国立研究開発法人 港湾空港技術研究所 地震防災研究領域 耐震構造研究グループ主任研究官 大矢陽介
5	精密単独測位GNSSを用いた深淺測量システム (NETIS:KTK-160016-A)	本システムは、離島・遠洋など基準局を設置できない場所でRTK-GNSSと同様な精度で測位を行えるGNSSである。このシステムにより約3cmまで水平方向の測位精度が向上するため、ナローマルチビームによる深淺測量の計測精度を向上させる技術である。日本の排他的経済水域など遠洋・離島における深淺測量、護岸築造時等の出来形計測に適用できる。	東洋建設(株) 土木事業本部 土木技術部 部長 和田 眞郷
6	サーモフィッター (NETIS:KTK-160028-A)	寒中コンクリート対策やマスコンクリートでの内部拘束による温度ひび割れ対策として、ジェットヒーター等による給熱養生で対応していた保温養生を容易に実施できるように、簡単に型枠に脱着でき、遮熱効果が高いアルミフィルムを表面に蒸着した優れた断熱性能を有する保温養生材『サーモフィッター』を開発した。ここでは、『サーモフィッター』の特長とその性能確認試験の結果について述べるとともに、適用事例についても紹介する。	りんかい日産建設(株) 土木事業部 総合評価積算部 中出 睦
7	高炉スラグを用いたコンクリート製品 ハレーサルトについて (NETIS:CG-110006-A)	ハレーサルトとは、プレキャストコンクリート製品に用いる超耐久・長寿命コンクリートである。高炉スラグを用いることで、普通コンクリートと比較し、耐塩害性、耐凍害性、さらにこれらの複合劣化に対する抵抗性、耐硫酸性が向上し、CO2排出量の低減や資源循環など環境負荷低減が可能である。コンクリートそのもので耐塩害性、耐凍害性、耐硫酸性を向上させており、あらゆるプレキャストコンクリート製品に適用が可能である。	ランデス(株) 営業開拓推進本部 東京営業所 波多野 勝俊
8	閉鎖性海域における環境評価シミュレーションモデルの構築	近年、沿岸海域の水環境を管理するうえで、「きれいで豊かな海」の観点のもと、それに応じたシミュレーションモデルや評価手法の開発が要求されている。現在、瀬戸内海を対象に、流動、水質・底質、生態系を一体的に計算できるモデルを開発中であり、環境要素として藻場・干潟の効果や重要な水産資源であるシラスやイカナゴの追跡モデルについても導入している。本発表では、開発中のモデルの内容ならびに評価・解析手法について紹介する。	(株)エコー 技術本部 防災解析部 環境解析室 白木 喜章